

2020年度筑波大学附属図書館の活動

新型コロナウイルス感染症対策における利用者サービス

学習支援



中央図書館2階利用制限中の様子（2020年4月）

2020年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため、開館時間の変更や利用制限が続きました。緊急事態宣言が発令された4月～6月は臨時閉館となり、その後は感染症対策をとり、時間を短縮して開館し段階的に利用の再開を進めました。11月以降はほぼ通常どりの開館、サービスとなりましたが、学外者の入館制限やセミナー室の利用制限等が継続し、入館者も一日平均で例年の半分程度でした。一方で、オンラインレファレンスや各種サービスのオンライン申込の拡充、大学に来ることが困難な学生・教職員に対する郵送による貸出・複写物送付など、来館せずに利用できるサービスの充実を図りました。引き続き、適切な感染症対策を取り、学習・研究に必要なサービス・環境を提供します。

中央図書館レイアウト変更後の状況

学習支援



アクリルパーテーションの設置

2020年3月に実施した中央図書館のカウンター統合によって拡大したチャットフレームを一部ギャラリーゾーンに転用することにより、利用者の動線に配慮し、かつ、スペースに余裕をもって展示が楽しめるよう有効活用しました。また、新型コロナウイルス感染症対策にも配慮しラーニングスクエアのレイアウト変更を実施しました。ソファ類は1台ずつ距離を取って配置し、可動式の机にはアクリルパーテーションを設置しました。今後も、安全かつ快適に学習・研究ができるよう検討していきます。

また、利用者ニーズアンケート調査で「視聴覚ブースで人目が気になる」との声が寄せられたことから、他からの視線が気にならないブースに更新しました。

オンライン講習会開催

学習支援

秋の図書館講習会 Library Orientation in Autumn

秋の講習会は、オンラインで開催します。 Library Orientation in Autumn is held online.

◆ 実時間配信（リアルタイム）/ Live Streaming

講習会 / Orientation	開催日 / Date	時間 / Time
心算学・情報科学関連外国語論文の探し方 (APA Style版)	10月8日(水)	18:00-19:10
海外法・ビジネス情報の探し方 (Leads Advance)	10月14日(火)	18:00-19:10
法律・判例文庫情報の探し方 (Dial Law.com)	10月21日(土)	18:00-19:10
医学関連論文を探そう！外国語版・CINAHL	10月21日(土)	13:45-14:45
化学分野データベース SciFinder活用法	10月27日(木)	16:45-18:00
文献管理ツールRefWorks活用法	10月28日(金)	15:15-16:45
国語情報検索システムデータベースUSA活用法	10月28日(金)	[1] 16:00-17:00 [2] 18:00-19:00
外国語論文の探し方 (ProQuest Central)	11月1日(火)	15:15-16:45
ProQuest Central Workshop	11月1日(火)	[in English] 16:45-17:45
外国語論文の探し方 (Web of Science)	11月11日(水)	15:15-16:45
経営学・経済学・ビジネス関連論文の探し方 (Business Source Complete活用法)	11月13日(金)	18:00-19:10
法律・判例文庫情報の探し方 (Westlaw Japan)	11月16日(月)	18:00-19:10

◆ 動画提供 / Video on Demand

- 留学生オリエンテーション Library Orientation for International Students [in English]
- 新入生オリエンテーション
- 日本語論文の探し方 (CINAHL)
- 博士論文インターネット公表の基礎知識
- 医学論文データベースSPORTSDiscus活用法
- 医学関連論文を探そう！日本語版・医中誌Web
- 医学関連論文を探そう！外国語版・PubMed
- 20分でおさえる！研究テーマを決めるための情報とツール
- 大塚図書館の使い方 論文検索から入らずまで

参加にあたって / Attention

講習会に参加・視聴するには、manabaのコース登録が必要です。詳しくはWebページへ！

コース名：附属図書館講習会（秋学期）

コースコード：a202010

お問い合わせ先 / Contact Us: info@ulib.tsukuba.ac.jp

オンライン講習会一覧

新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、2020年度秋の図書館講習会をオンラインで開催しました。manabaに講習会のコースを開設し、職員が作成した動画の提供、データベース提供元による同時配信での開催等、10月以降21件を実施しました。

初の試みでしたが、manabaで実施したアンケートでは「満足」「やや満足」との回答が多く、必要な箇所を動画で繰り返し見られるのがよい、通学しにくい状況のため有益との感想がありました。一方、同時配信では込み入った質問がしにくい、参加者のミュートを徹底して欲しいとの意見もあり、今後の課題と考えています。

2021年度春の講習会もオンライン開催の予定です。引き続き、学習・研究に役立つ講習会の企画・開催を目指していきます。

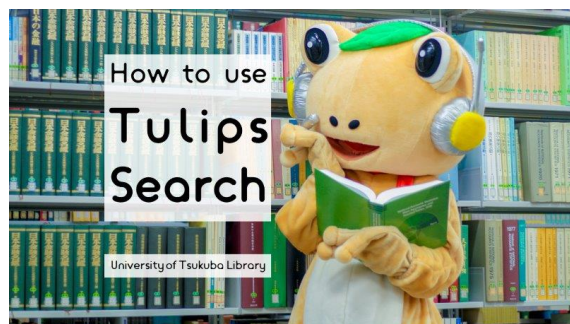


LA企画「LAが筑波大生の質問にオンラインで答えてみた」動画

LAは中央図書館の学生サポートデスクで学習相談を中心に様々な質問に対応するほか、レポートの書き方セミナーや図書の紹介展示などを行っています。2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響で通常のセミナーやイベントの開催が難しい中、動画で学生の疑問に答える企画を実施しました。「LAが筑波大生の質問にオンラインで答えてみた」と題し、事前に募集した学習や研究に関する質問に、LA7名が座談会形式で答えるものです。

担当職員も編集に協力し、「研究テーマ・進路」「レポート執筆について」「資料の探し方」の3本の動画を作成して2021年1月にYouTubeで公開しました。動画は以下のURLで公開しています。

<https://www.youtube.com/channel/UCK8ZZOx19VxL2WS-dJXQ-Mq>



「1分チュートリアル」動画

留学生向けに図書館の使い方等を短くシンプルに要点をまとめた動画として、「1分チュートリアル（One minute tutorials）」をYouTubeで公開しました。「本の探し方」、「貸出期間の延長方法」、「自動貸出機の使い方」など、21本の動画を英語で視聴することができます。

また、筑波大学附属図書館の機能やサービスを、留学生、外国人教職員・研究者向けに詳細に英語で紹介する“Library Guide for International Staff, Researchers, and Students”を附属図書館Webサイトで公開しました。印刷版も現在中央図書館で配布しています。

どちらも当館ウェブサイトの「利用案内」>「図書館に行こう!」>「留学生の方へ」から見るができます。

<https://www.tulips.tsukuba.ac.jp/lib/service/international>



電子ブックリストWebページ

2020年度は、コロナ禍による来学制限等への対応として、必要性、緊急性が高まった学外からの利用（リモートアクセス）についてその一層の強化のためデータベース「医中誌Web」に有料のリモートアクセスを追加しました。また各出版社から期間限定でアクセス条件緩和措置がなされた電子リソースについても、附属図書館Webサイトで情報提供に努めました。オンライン授業への対応としては、授業で使用する図書の教員推薦を電子ブックでも受け付けて学外からも利用可能とし、さらに電子ブックの可視性向上のため、附属図書館Webサイトのトップページに電子ブックへのリンクを追加しました。

電子ブックの利用は全体として大きく伸び、中でも日本語書籍の多いMaruzen eBook Libraryでは2020年度上半期には前年度同時期と比べて約6倍もの利用がありました。



電子ジャーナルリストWebページ

全学的整備方針により安定的に提供している電子ジャーナル・データベースについて、現在の整備方針の適用が2021年度までとなっていることから、2022年度以降の方針の検討のため、関係する副学長、系長等をメンバーとする「電子ジャーナル整備方針検討タスクフォース」を設置し検討を行いました。タスクフォースでは、学内組織へのアンケート調査結果、購読状況、利用状況等により検討を行い、整備方針案を作成しました。

この整備方針案について、運営会議を経て教育研究評議会において審議され、2022年度以降の方針と整備対象資料が決定しました。これにより引き続き安定的に電子ジャーナル等を提供することが可能となっています。



研究成果報告会ポスター

研究開発室では、学内の教員と図書館職員等が協力して、図書館機能に関する調査・研究や、学術情報の収集・発信に関する調査・研究、図書館の教育研究支援に係る調査・研究等を中心に活動を行っています。

2020年度は、室長と13名の室員により、役に立つ大学図書館を目指して具体的な企画・実施を図っていくために、9のプロジェクトによる活動を行いました。

各プロジェクトの研究報告は、今年度は報告会の開催ではなく、Webサイトから公開し、新型コロナウイルス感染症対策のため十分な活動ができなかったプロジェクトについては、過去の活動をまとめました。

<https://www.tulips.tsukuba.ac.jp/lib/about/rdo/2020/posters>

オンラインワークショップ「CMSを利用したデジタルアーカイブの構築」を開催

情報発信



2020年9月11日、Zoomによるオンラインワークショップ「CMSを利用したデジタルアーカイブ（DA）の構築」を、附属図書館研究開発室と人文社会国際比較研究機構との共催により開催しました。中村寛氏（東京大学史料編纂所）からは「Omeka Sを用いたIIIF対応デジタルアーカイブ構築の実例」について、和氣愛仁氏（筑波大学人文社会系）からは「Drupalを用いたIIIF対応デジタルアーカイブ構築の試み」について講演がありました。

当日は、全国の図書館職員を中心に145名の参加があり、デジタルアーカイブ（DA）構築に特化したCMSであるOmeka Sと汎用CMSであるDrupalの対比を通じて、DA構築についての現状と課題を共有することができました。

<https://www.tulips.tsukuba.ac.jp/lib/ja/information/20200806>

「CMSを利用したデジタルアーカイブの構築」ポスター

筑波大学出版会および筑波大学関係刊行書籍

情報発信



刊行書籍表紙一覧

筑波大学出版会は、附属図書館内に事務局を置き、筑波大学の研究成果を発信するため、学術書、教科書、一般教養書等の刊行を行っています。2020年度は次の3点が刊行されました。

『もっと知りたい！「科学の芽」の世界 PART7』

『フェルミオロジー』

『競技スポーツにおけるコーチング・トレーニングの将来展望』

出版会ウェブサイトURL:

<https://www.press.tsukuba.ac.jp/index.html>

また、内閣府の実施する、日本の魅力発信に資する書籍の翻訳出版事業“JAPAN LIBRARY”に、2011年5月刊行の『気概と行動の教育者 嘉納治五郎』が選定され、『The legacy of Kano Jigoro : Judo and education』として2020年春に翻訳出版されました。



2020年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、12月14日から2月28日まで、特別展オフィシャルWebサイトにて資料を公開する電子展示を開催しました。附属図書館の特別展示は1995年度以降に27回開催されていますが、今回の電子展示では、2004年度以降の展示企画から、各年数点ずつ資料を選び紹介しました。電子展示では、資料の細部まで画像で見ることができ、附属図書館所蔵資料の多彩さを感じることができます。

また、特別展・企画展の軌跡として、それぞれのオフィシャルWebサイトを、開催当時の形はそのままに、資料リストやリンクを整備して最新の電子資料にアクセスできるようにしました。期間中のWebサイトへの訪問者は約4,850人となっており、附属図書館において25年間継続して開催してきた展示会の歴史を振り返ることができました。

<https://www.tulips.tsukuba.ac.jp/exhibition/2020/>

企画展「もう一度見たい名品～蔵出し一挙公開～」ポスター

小松市立博物館、図書館情報メディア系との共催展示



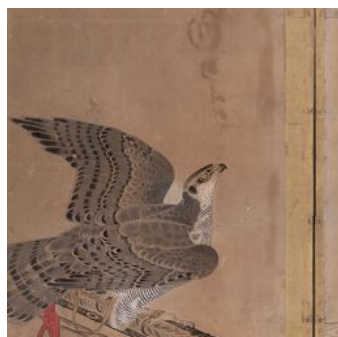
図書館情報学図書館ではメディアミュージアムにて、2021年1月22日から3月14日まで企画展示「能順と連歌」を行いました。図書館情報メディア系とともに、石川県の小松市立博物館との初めての共催として、小松にゆかりの深い連歌師能順をテーマに、2館で同時期に開催しました。当館展示の解説音声の入った動画を先方で流すなど、コロナ禍の中、遠隔でもできる連携を行いました。当館展示では、教員所蔵の連歌資料や、白山と筑波山の資料などで連歌の世界と小松と筑波の結びつきを紹介しました。

展示室は学内者限定とし、代わりに、図情としては初めてのオンライン電子展示も公開し、学内外の方に広く長くご覧いただける形も試みました。

<https://www.tulips.tsukuba.ac.jp/pub/mediamuseum/202101renga/>

企画展示「能順と連歌」展示会場（左）と電子展示（右）

田村直翁筆「架鷹図」修復実施



「架鷹図」部分

附属図書館が所蔵する田村直翁筆「架鷹図」は、江戸時代初期に、田村直翁によって架にとまる12羽の鷹の姿が描かれたもので、金箔台紙に押貼り幀装された6曲1双の屏風装です。落款を有し田村直翁筆とされるものは、現在数点しか確認されておらず、中でも落款印とともに自筆署名のある本作品は貴重なものであると考えられ、江戸時代初期の架鷹図としてもひととき重要な資料です。

当該資料は、経年による汚れの付着に加え、水濡れによるシミも生じており、表装の破損も甚大な状況でしたが、2020年度から学内経費にて保存修復作業を開始し、2022年度には修復事業が終了する予定です。